

監視委員会評価部会報告書（評価結果の概要）

1 短期的変動調査

○調査期間：令和2年4～6月、7～9月（四半期毎に評価）※

※評価は4半期毎に実施しており、両四半期における結果は同様であった。

目的	原子力施設の平常稼働時に放出される放射性物質の他、事故等により放出される放射線・放射性物質の有無や環境への影響の有無を早期に把握する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・環境（事業所敷地外）：空間ガンマ線量率、放射能（大気、農畜産物、海洋）の測定 ・事業所敷地内：空間ガンマ線量率、放射能（大気）の測定 ・放出源（原子力施設の排気筒、排水溝）：排気、排水に含まれる放射能の測定
監視結果の評価（案）	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 空間ガンマ線量率（モニタリングステーション、モニタリングポスト）の測定結果が平常の変動幅の上限値（100nGy/h）を下回っていた。 ➤ 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響等により、放射性核種¹³⁷Csが大気塵埃、降下塵から検出された。

2 長期的変動調査

○調査期間：令和2年4月～9月（半年毎に評価）

目的	原子力施設周辺環境における放射線と放射性物質のレベル、蓄積傾向及び地域分布の状況などの長期的変動の有無を把握する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・環境（事業所敷地外）：空間ガンマ線量率、漁網表面吸収線量率、放射能（大気、陸土、陸水、海洋など）の測定 ・事業所敷地内：空間ガンマ線量の測定
監視結果の評価（案）	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、空間ガンマ線量率（サーベイ）の測定結果が事故前の測定値を上回り、積算線量の測定結果も平常の変動幅を上回った。（測定値は年々減少傾向にある。） ➤ 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響により、土壌、海底土などから¹³⁷Csなどの放射性核種が検出された。